自然と文化科 活動記録 (公開講演会)

日時2025年9月19日(金)10:00~15:00担当者場所クロスパル高槻午前:公開講演会 8階イベントホール
午後:各委員会、全体会議、班会議、運営委員会等自我千津子

備考 | 参加者数 1班23名 2班19名 3班16名 4班20名 他4名 合計82名

1. 講演のテーマ: ずいき祭りと新嘗祭

2. 講演者名: 兵庫県生物学会顧問 清水美重子先生

3. 講演要旨:

昨今のニュースで「米問題」が登場しない日はない。米のもとである稲は、「命の根」が語源と言われ、昔の人は、魂が宿っていると信じてきた。その収穫を神に感謝し、来るべき年の稲(いな)魂(だま)を誕生させる儀式が「新嘗祭」である。

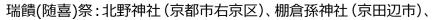


私たちの祖先は、主食に「米」を選んだ。米によって国家が統一され、日本人の日本の社会・文化を作り育ててきたすべての源が「米」で、それを中心とした「稲作文化」が、日本文化の根幹をなしている。また、稲作が伝わる以前、焼き畑によるサトイモ栽培があり、その収穫を感謝する祭りが「月見」や「ずいき祭り」「芋くらべ」などで、古い祭りの形を現代に伝えている。米不足によって「米」を見直す良い機会、「米」や「芋」のいろいろを探ってみる。

ずいき祭り

ずいき(芋茎、サトイモの葉柄)を用いて、畑作物の収穫を神に 感謝する収穫儀礼。

芋茎で屋根を葺き、野菜・果物・花などで飾った神輿で町内を練り歩いたり、神社に奉納したりする。また芋茎で作った大蛇に、人身御供用の人形を供えたり、芋茎の長さを競い豊凶を占ったりする。



御上神社(滋賀県野洲郡野洲町)

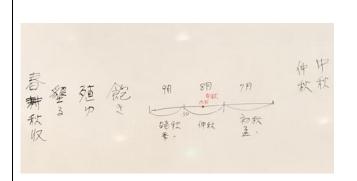




新しい稲の刈り入れを祝い、神に供えて感謝する収穫祭。

戦前は国家行事として催されたが、昭和 23 年 11 月 23 日をもって「勤労感謝の日」として国民の祝日に変わった。新暦で新嘗祭を行うと決めた明治 6 年、旧暦霜月中卯日が新暦 23 日であったため、この日となった。

穀物には稲玉が宿り、ご飯を食べることは、空腹を満たすためだけでなく、衰えた体内に稲玉を取り入れ、霊力の補強・再生をするためである。



ご飯とめしの違い

ご飯:白米のみ碗-石

箸でつまんで口元に持っていき食べる 粘り気があるので落ちない

めし: 白米以外

色んなものが入っている

椀-木

軽い器で口元まで持っていき、ばらばらになる ため、かきこんで食べる

